

せんげん台駅東口雨水貯留施設 整備に関する説明会

■日時:令和8年9月18日(金)19:00～
令和8年9月19日(土)10:00～

■場所:千間台東一丁目自治会館



越谷市

【説明会次第】

1 開会

2 あいさつ

3 事業の説明

- (1) 整備目的と背景
- (2) 工事の概要
- (3) 工事に伴う影響について
- (4) スケジュールについて

4 質疑応答

越谷特別市民
ガーヤちゃん



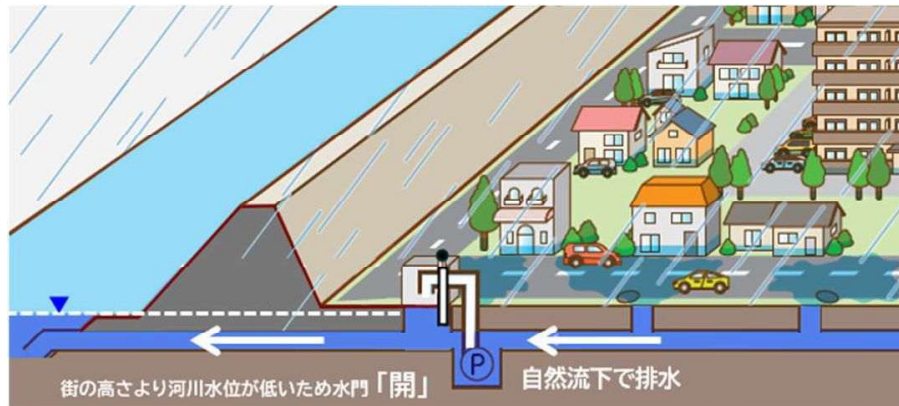
【1.整備目的と背景】

◎ 水害が発生する仕組み

降った雨の量が、河川や側溝、下水道などが処理できる量を上回ることによって、道路冠水等が発生する現象であり、特に地盤の低いところで冠水が発生しやすい。

平常時

河川水位が低い場合には、自然の流れで川に排水されています



がいついはらん

外水氾濫

大雨によって河川の水位が高くなると堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊することで、発生する水害です



ないすいはらん

内水氾濫

雨の量が水路などの排水能力を超えたときや、排水ポンプによる排水能力が追いつかないときに雨水が排水できなくなり、発生する水害です



都市部で発生しやすい水害

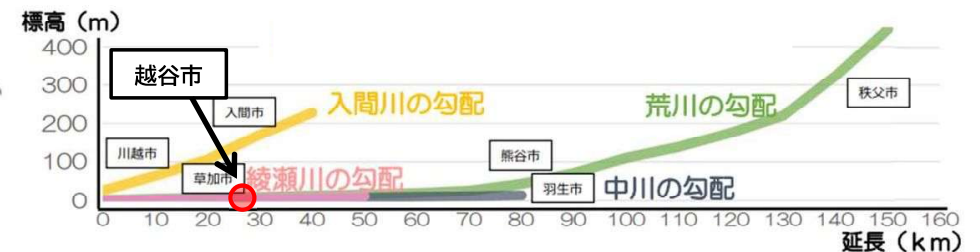
【1.整備目的と背景】 ◎ 越谷市の地形と河川環境について

越谷市は利根川、荒川、江戸川といった大河川に囲まれた中川・綾瀬川流域に位置し、市内には5本の一級河川が流れており、古くから「水郷こしがや」と呼ばれています。



お皿のような地形で水が溜まりやすい

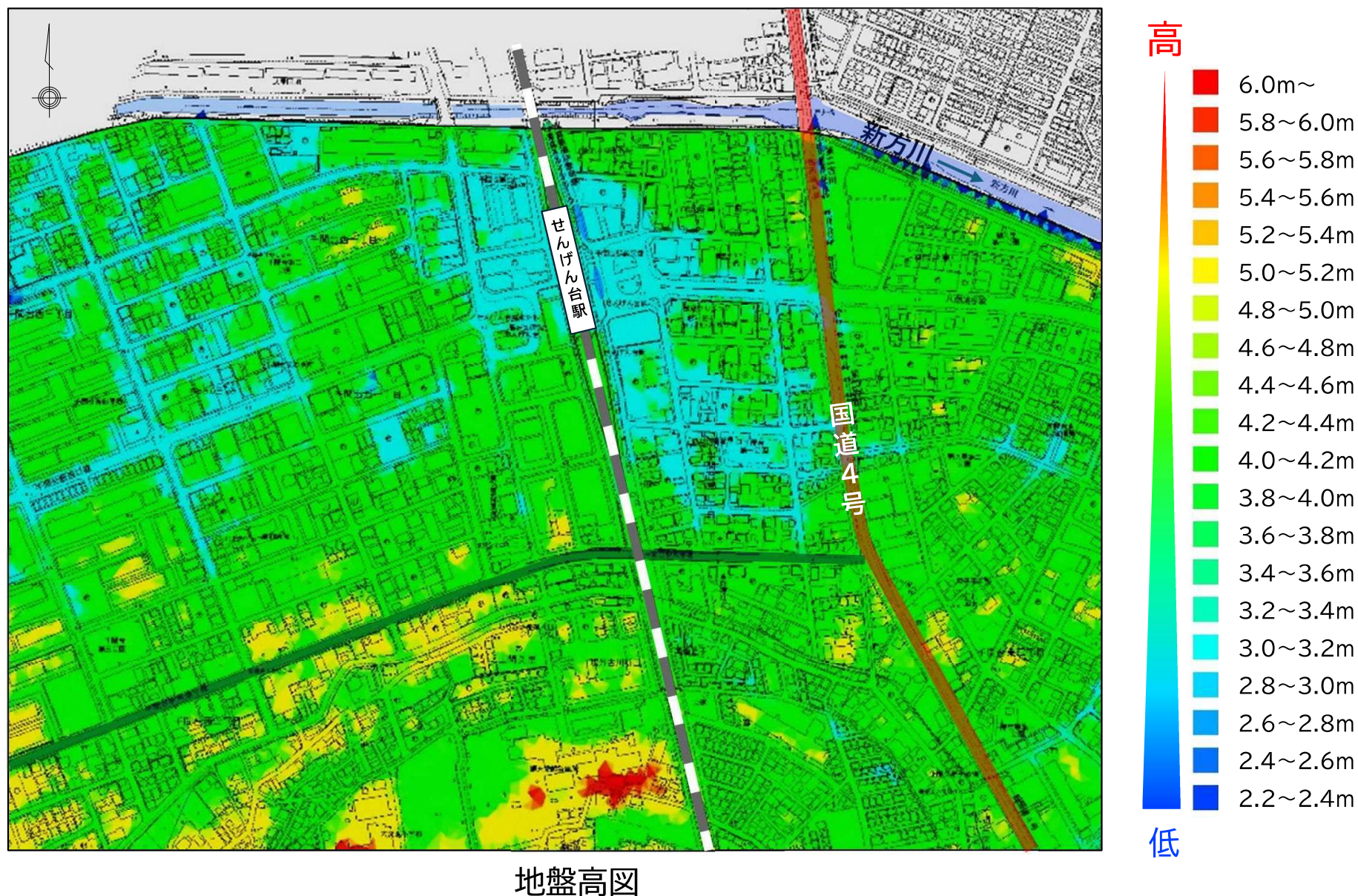
川の傾きがゆるく水を流す力が弱い



内水氾濫による大きな被害を受けやすい

【1.整備目的と背景】 ◎ せんげん台駅周辺の地形について

せんげん台駅周辺は、地盤が低いため、降った雨が河川や側溝、下水道などが処理できる量を上回ると、道路冠水等が発生しやすい地形となっています。



【1.整備目的と背景】 ◎ 過去の浸水被害状況

近年の水害被害としては、平成27年9月の台風18号と令和5年6月の台風2号において、市内全域で「内水氾濫」の被害が発生しています。

近年の大規模降雨			
名 称	期 間	総雨量	時間最大雨量
平成25年 台風 26号	10月15日～10月16日	217.0 mm	35.0 mm
平成26年 台風 18号	10月 5日～10月 6日	231.0 mm	24.5 mm
平成27年 台風 18号	9月 9日～ 9月11日	402.0 mm	53.0 mm
令和元年 台風 19号	10月11日～10月13日	234.5 mm	34.5 mm
令和 5年 台風 2号	6月 2日～ 6月 4日	322.0 mm	53.0 mm

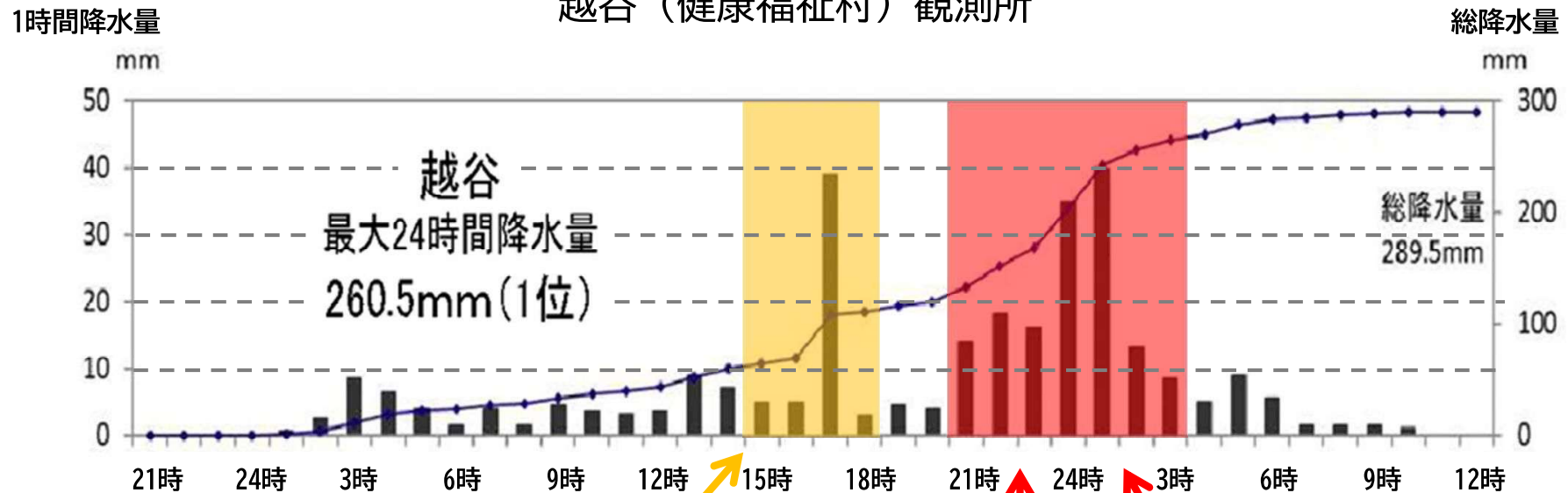


せんげん台駅東口における道路冠水状況

【1.整備目的と背景】 ◎ 近年の大規模降雨による浸水被害の状況

<令和5年6月台風2号の状況>

越谷（健康福祉村）観測所



線状降水帯が発生

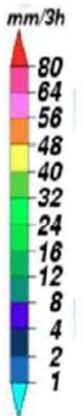
2日15～18時の3時間降水量

2日21～24時の3時間降水量

2日12～15時の3時間降水量

2日18～21時の3時間降水量

3日00～03時の3時間降水量



【1.整備目的と背景】

◎ 近年の大規模降雨による浸水被害の状況

＜令和5年6月台風2号の状況＞

大袋地区周辺



新方地区周辺



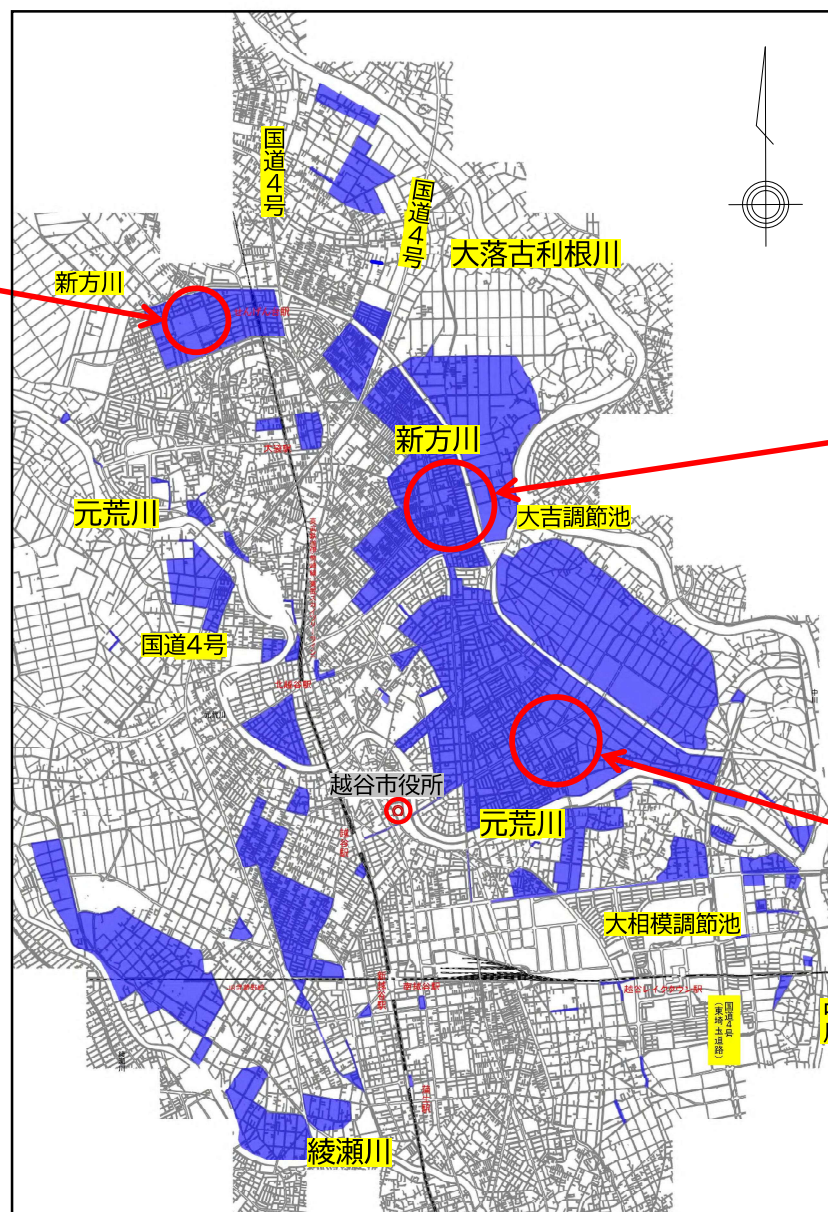
増林地区周辺



浸水被害状況

浸水面積	1, 510 ha
床上浸水	600件
床下浸水	2, 529件

凡例  : 浸水被害範囲



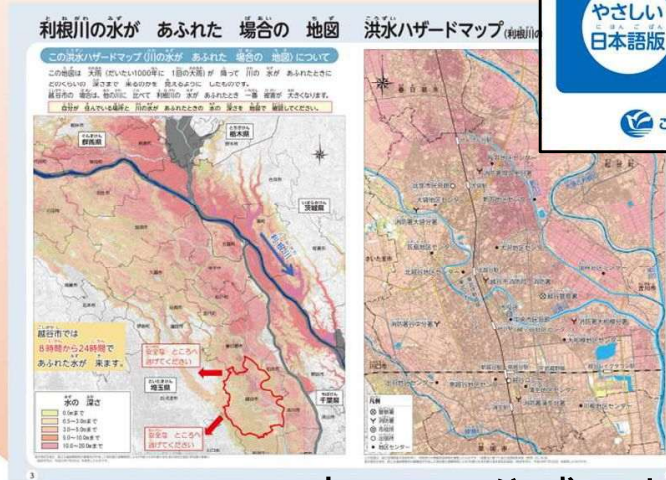
※当時の浸水被害（道路冠水等）範囲の概略を示したものであり、実際とは異なる場合があります

【1.整備目的と背景】 ◎ 越谷市の治水対策の取り組み(ソフト対策)

情報発信

総合防災ガイドブック

洪水ハザードマップ



まるごとまちごとハザードマップ

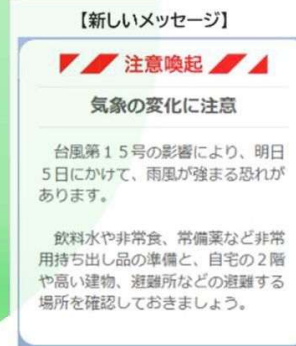


市LINE公式アカウントによる防災情報発信

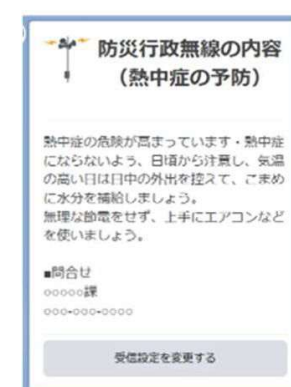
避難所手続き・避難場所の検索



防災・災害情報の受信



防災行政無線の受信

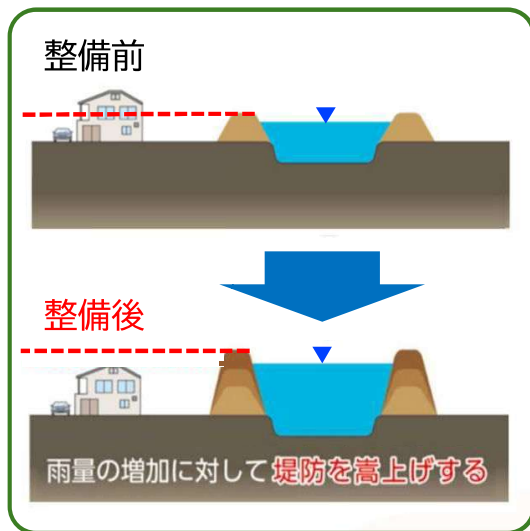


【1.整備目的と背景】

◎ 千間台東地区周辺における治水対策の
主な取り組み(ハード対策)

河川改修(埼玉県事業)

新方川の堤防の嵩上げ



整備前



整備後



雨水貯留施設の整備

一時的に地下に雨水を貯める施設の整備

今回実施する事業

未整備

整備中

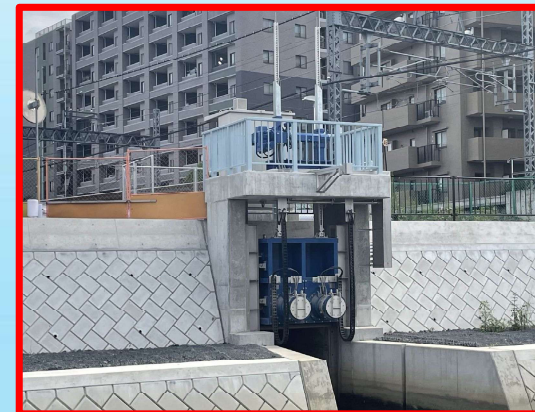
ポンプ場の整備

排水ポンプ能力の増強

整備前



整備後



整備完了

※整備前の約2倍の排水能力を有する

【1.整備目的と背景】 ◎ 整備する雨水貯留施設の特徴

雨水貯留施設とは

雨水を一時的に貯めるための施設です

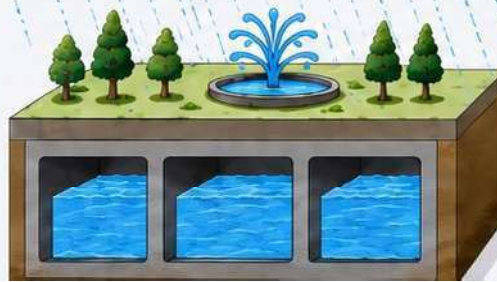
表面貯留

学校の校庭などを掘り下げて雨水を一時的に貯留したり地下へ浸透させる施設



地下貯留

道路や公園の地下に雨水を貯留する施設



調整池

河川の増水による越水や堤防の決壊を防ぐため河川水位を調整する施設



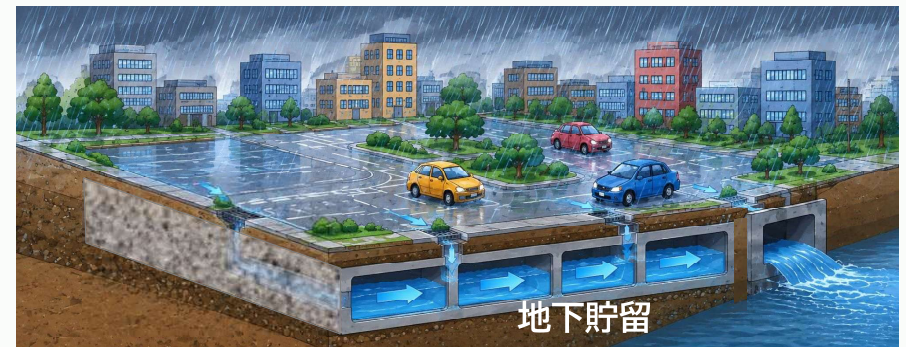
雨水貯留施設による効果

雨水を一時的に貯留することで、河川や下水道への負担を軽減し、浸水被害を軽減する効果があります

対策前（整備前）



対策後（整備後）



【1.整備目的と背景】 ◎ 整備する雨水貯留施設の構造形式

社会情勢の変化に伴い、整備効果や整備スケジュールを変更することなく、建設資材を安定的に確保でき計画的な施工が見込めるとともに、建設コストを抑えられることから『プレキャスト工法』による整備を行います。

当初

変更

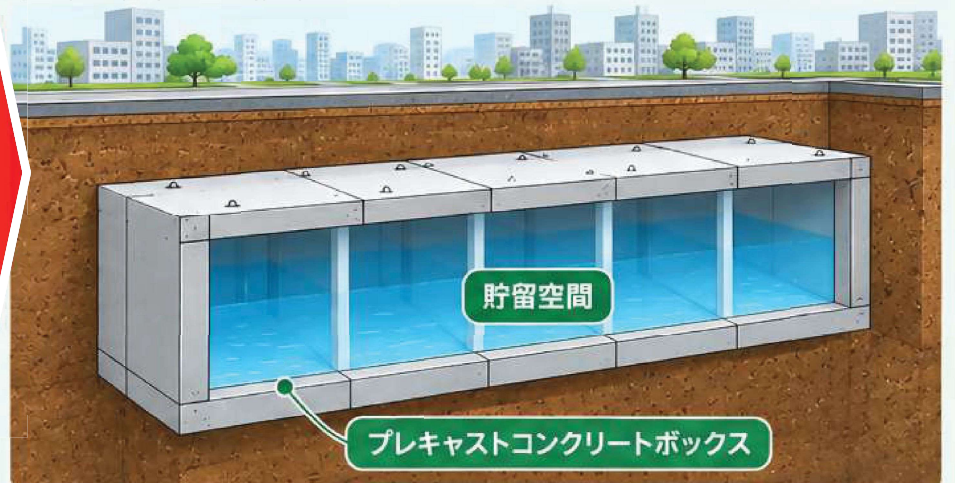
シールド工法

シールドマシンで地中を掘り進みながら、コンクリートのセグメントでトンネルを築造する工法です。



プレキャスト工法

工場で製作したプレキャストのブロック状の貯留施設を、地中に設置して構築する工法です。



施工場所	道路(駅前ロータリー)・道路地下
特徴	地上を掘削しないで地下に大きな貯留空間を確保できるが、整備区間が短距離の場合は高価である。
交通への影響	最小限の交通規制のため比較的影響が小さい
工期	シールドマシン等の製作に時間を要するため、長期間の時間を要する
維持管理	施設の深度が深いため、容易ではない
社会情勢の影響	シールドマシンの製作及び駆動系において、社会情勢の影響が生じやすい
施工性	掘進・発進／到達設備が必要でありシールドマシンを操作するのに高度な技術管理を要する

施工場所	道路(駅前ロータリー)
特徴	工場製作された部材を使用するため、品質を確保しやすく、他工法に比べて安価である
交通への影響	大規模な交通規制などが必要
工期	工場製作のため、他工法に比べて短期間で整備できる
維持管理	施設の深度が浅いため、比較的容易
社会情勢の影響	一般的な資材で製作され、主に国内で調達できるため、社会情勢の影響が生じにくく、安定的に資材手配が可能
施工性	掘削・土留め・埋戻しが必要ではあるが工場製作部材を組み立てるため施工は容易である

【2.工事の概要】

■貯留容量：約4,000m³

一般的な小学校25mプール
約 1 1 杯 分です

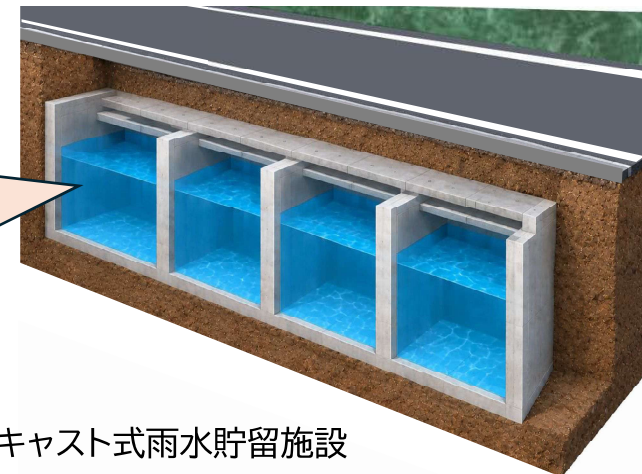


■整備場所：千間台東一丁目（駅東口ロータリー内に整備します）

■施工期間：令和8年度～令和11年度（4カ年を予定）

■構造形式：プレキャスト工法

プレキャスト工法とは
工場で製造されたコンクリート製の部材を現地で
組み立てて施設を建設する工法です

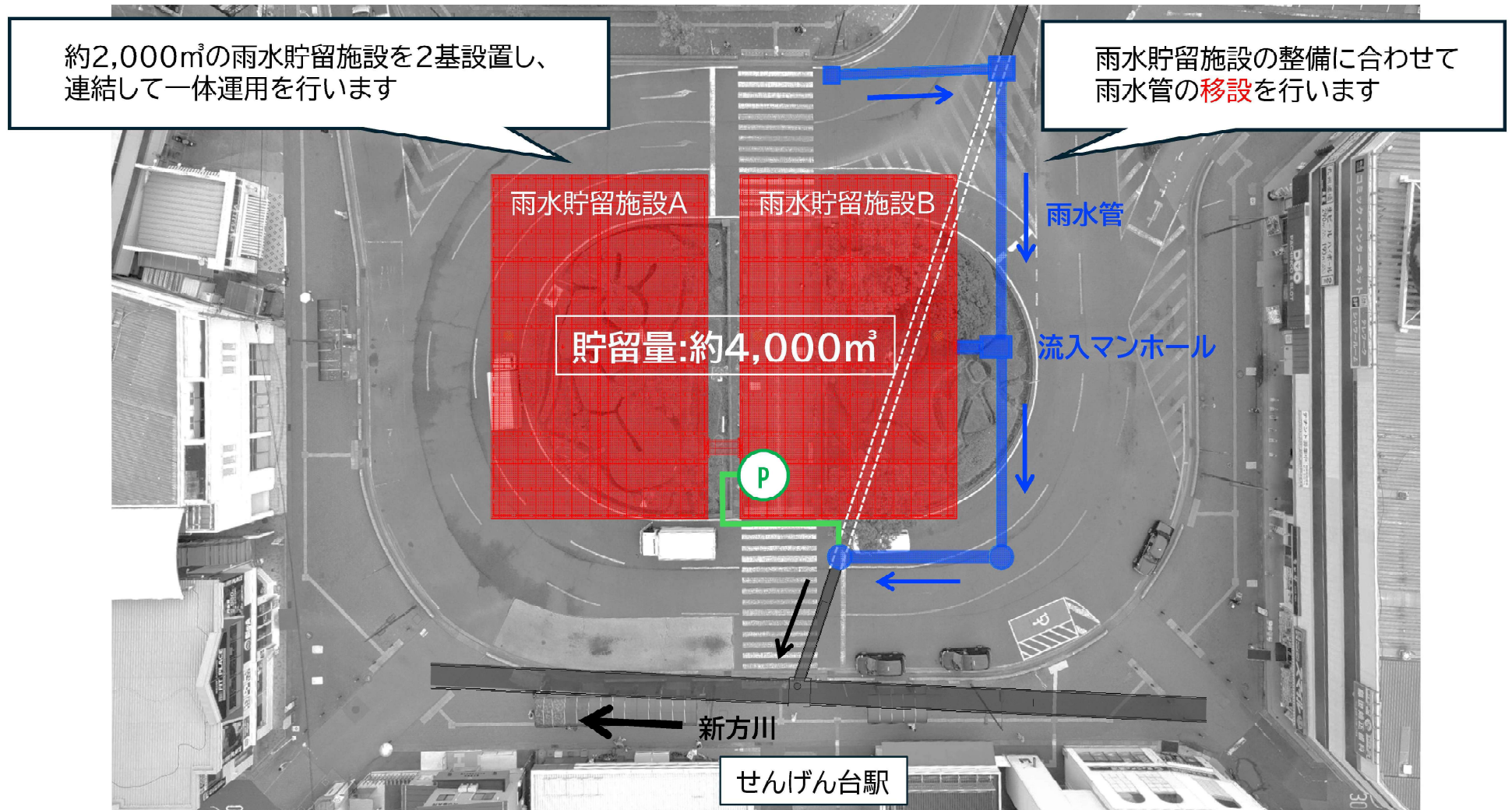


プレキャスト式雨水貯留施設

【2.工事の概要】 ◎整備する雨水貯留施設の構造について

雨の量が水路や雨水管などの排水能力を超えたときに発生する「内水氾濫」への対策として、河川や水路等が一定以上の水位に上昇した場合に、雨水を雨水貯留施設へ流入させ、浸水被害の軽減を図ります。

整備計画図

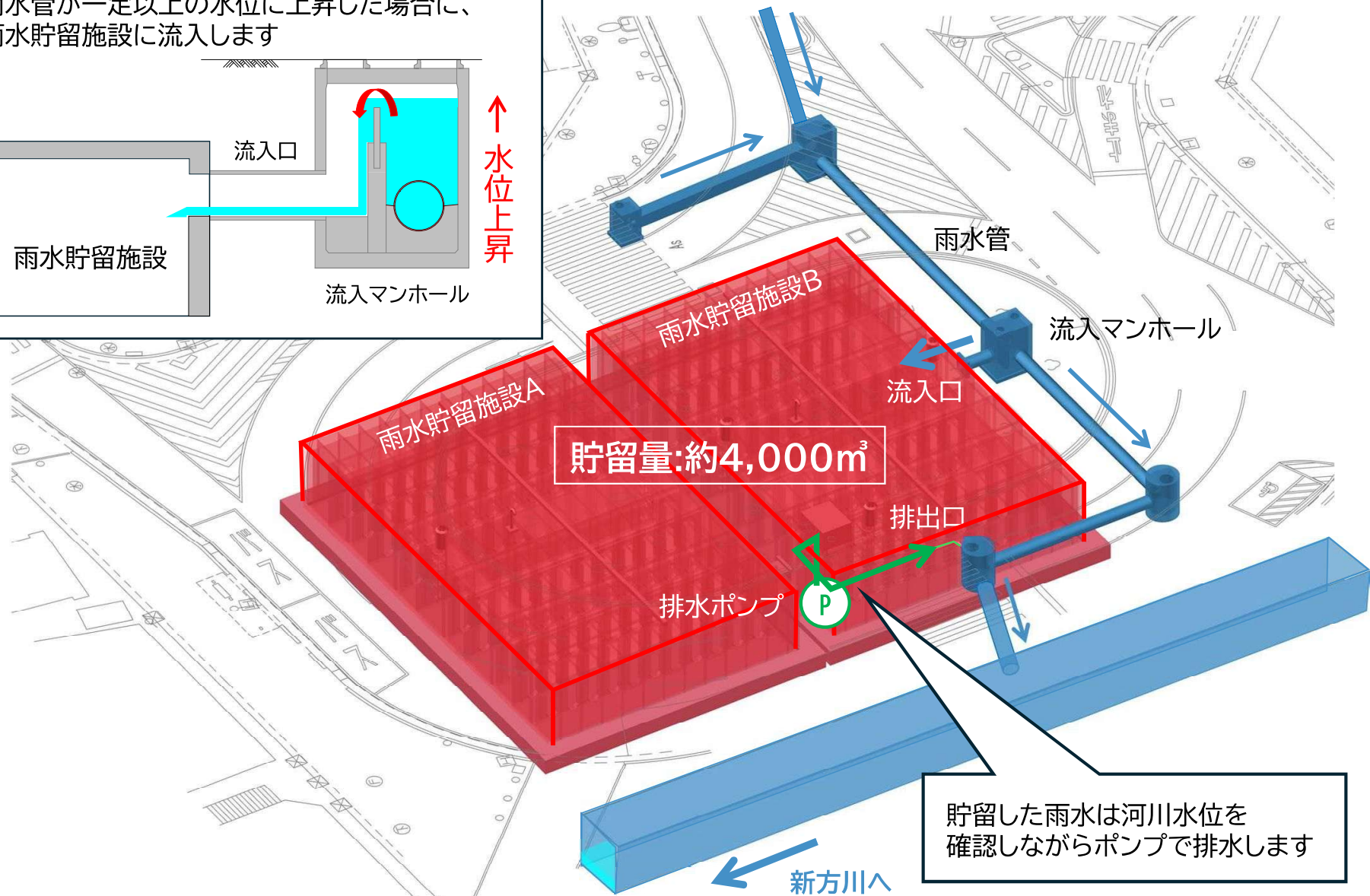
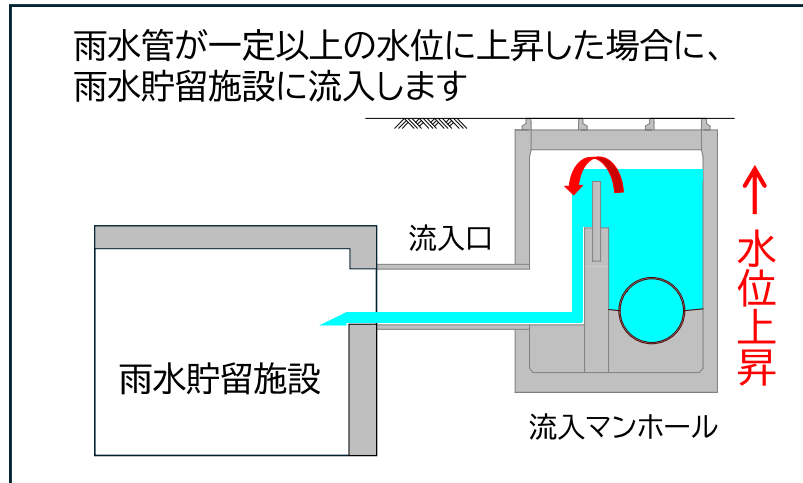


(凡例) (P) : 排水ポンプ

【2.工事の概要】

◎整備する雨水貯留施設の構造について

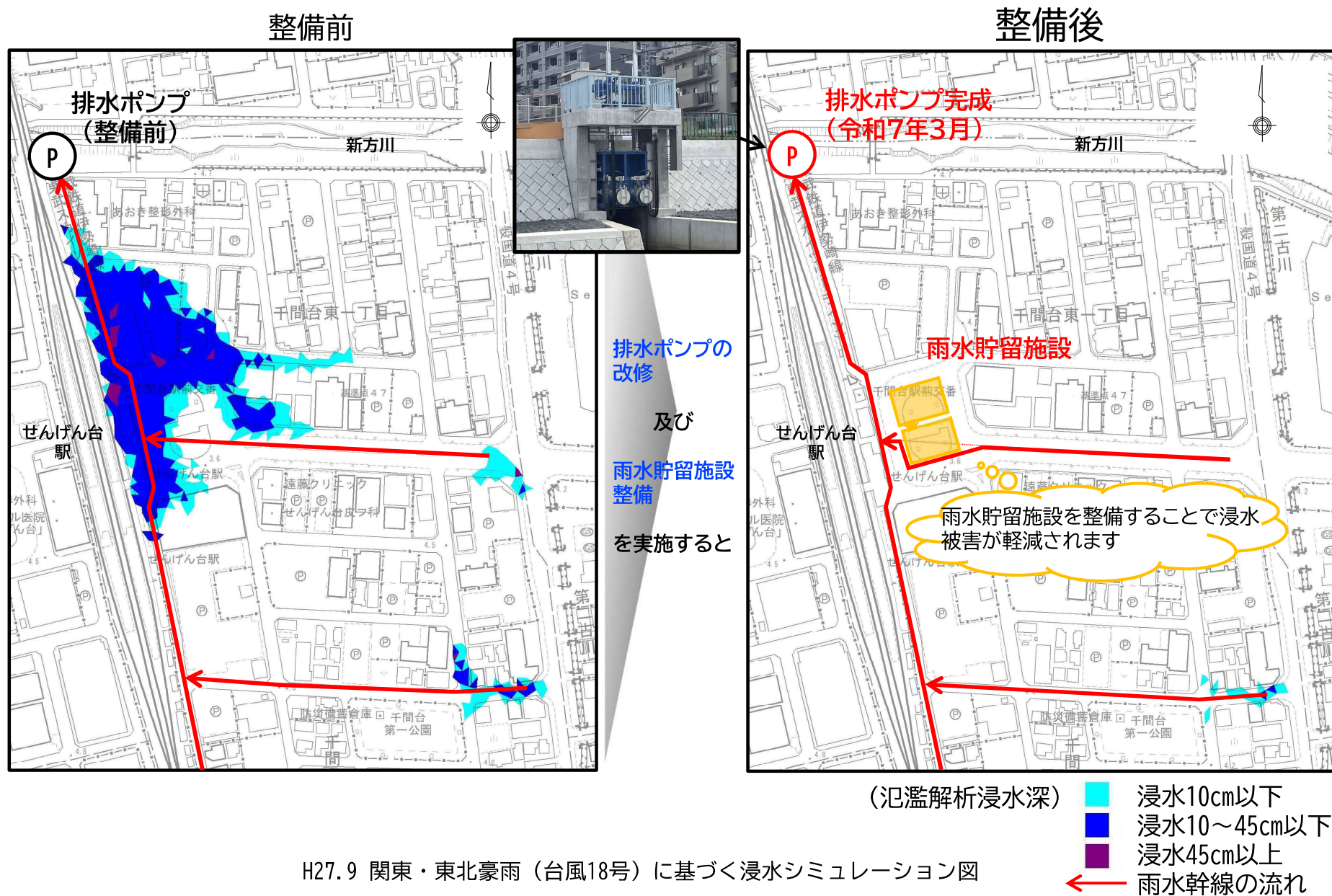
限られた施工条件の中で必要とする貯留量を確保するため、約2,000m³の雨水貯留施設を2基設置します。



貯留した雨水は河川水位を確認しながらポンプで排水します

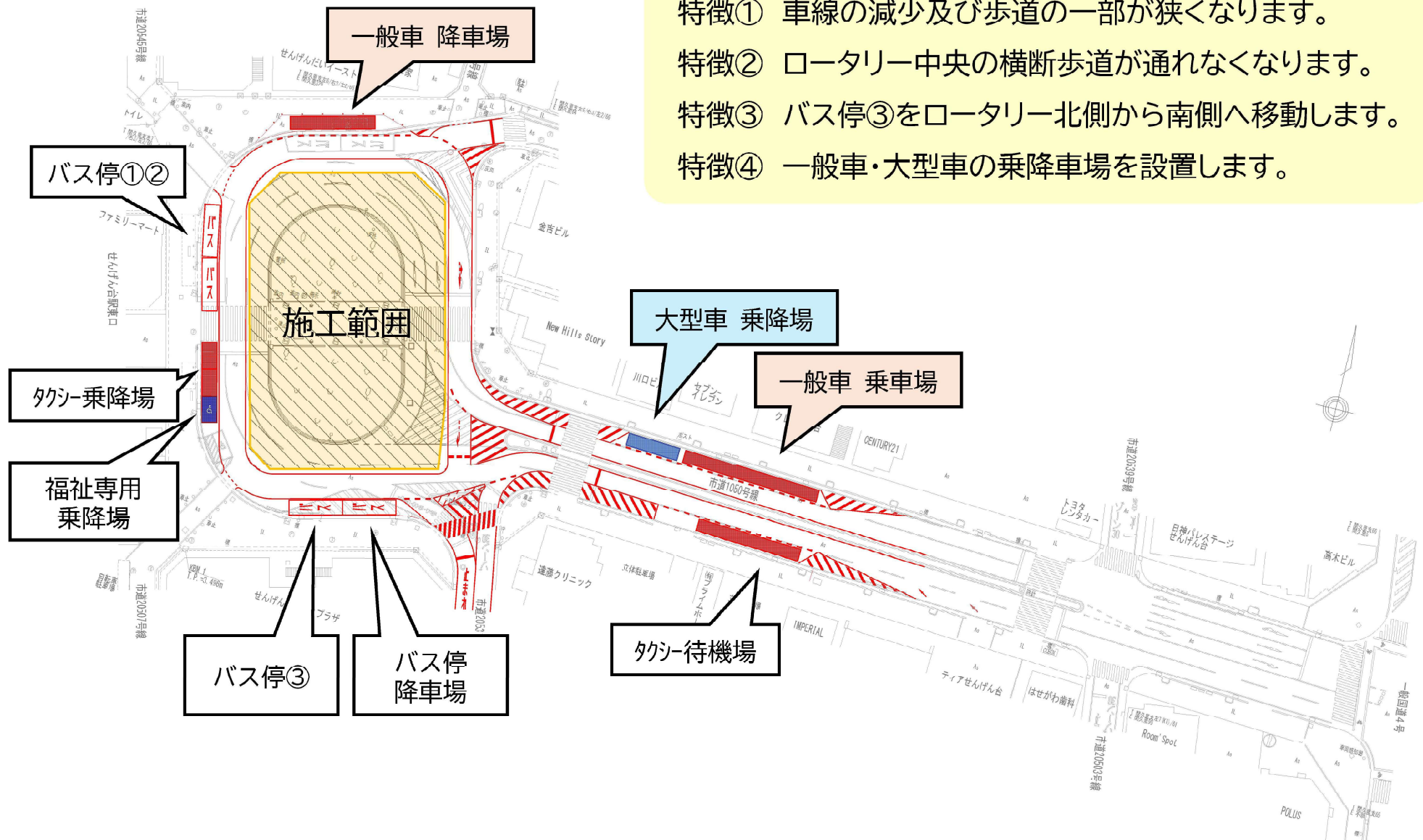
【2.工事の概要】 ◎雨水貯留施設を整備した効果について

平成27年9月の台風18号における降雨に基づき、排水ポンプの改修や雨水貯留施設の整備を実施すると、浸水シミュレーション図のとおり、せんげん台駅東口周辺の浸水被害が軽減されます。



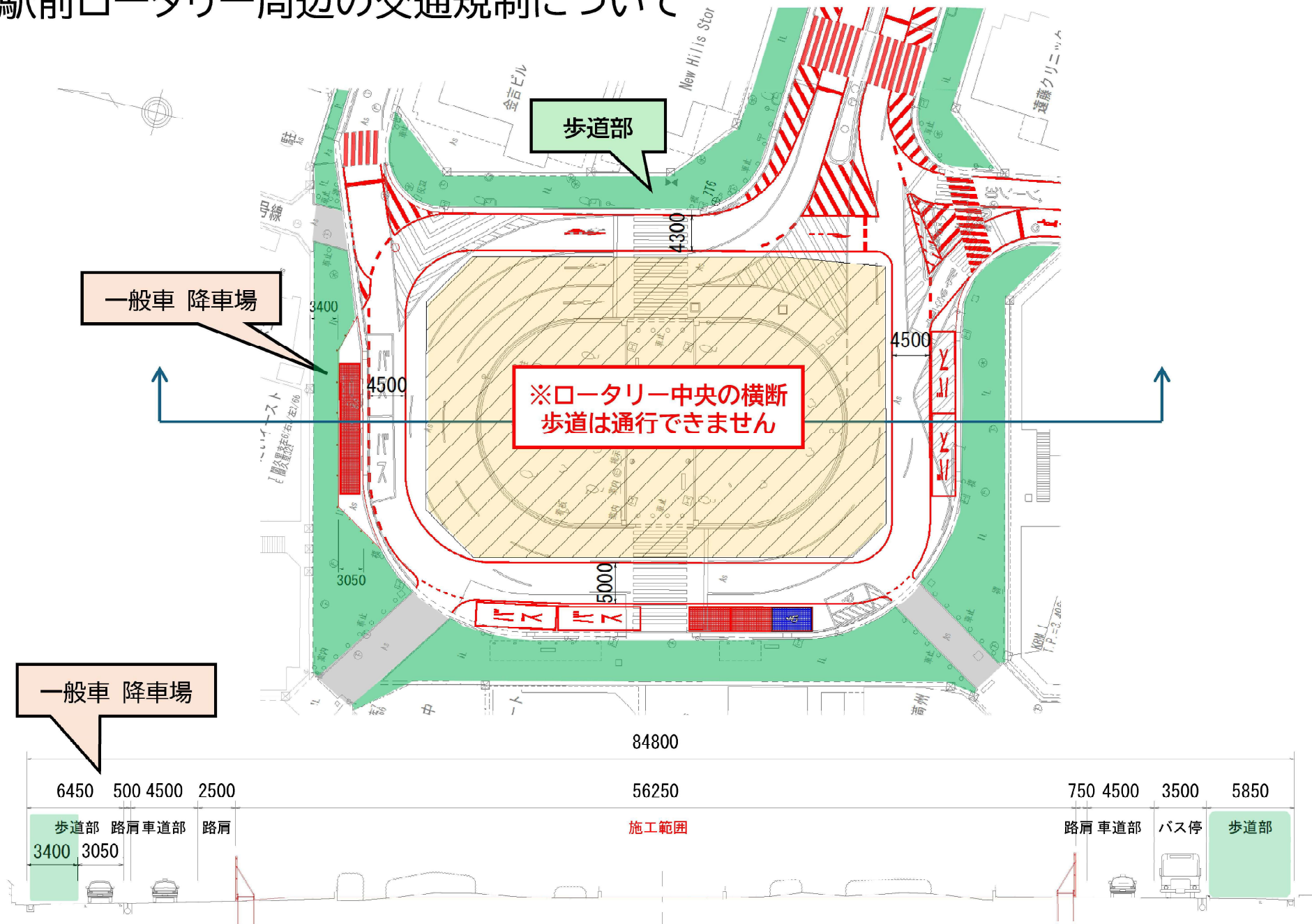
【3.工事に伴う影響について】

◎駅前ロータリー周辺の交通規制について



【3.工事に伴う影響について】

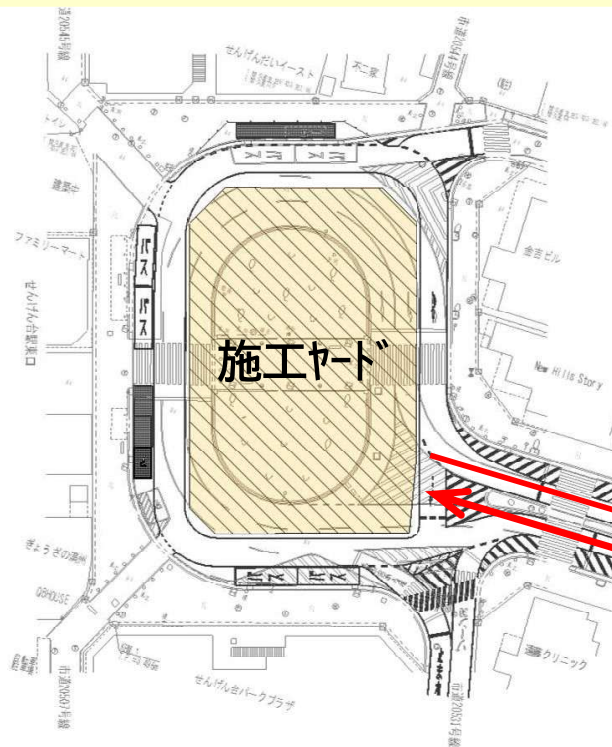
◎駅前ロータリー周辺の交通規制について



【3.工事に伴う影響について】

◎工事車両の通行について

工事期間中は、国道4号からロータリー内の施工ヤードまでの区間で工事車両が通行します。



10tダンプトラック



大型運搬車

工事期間中は工事車両が通行します



70tラフテレーンクレーン

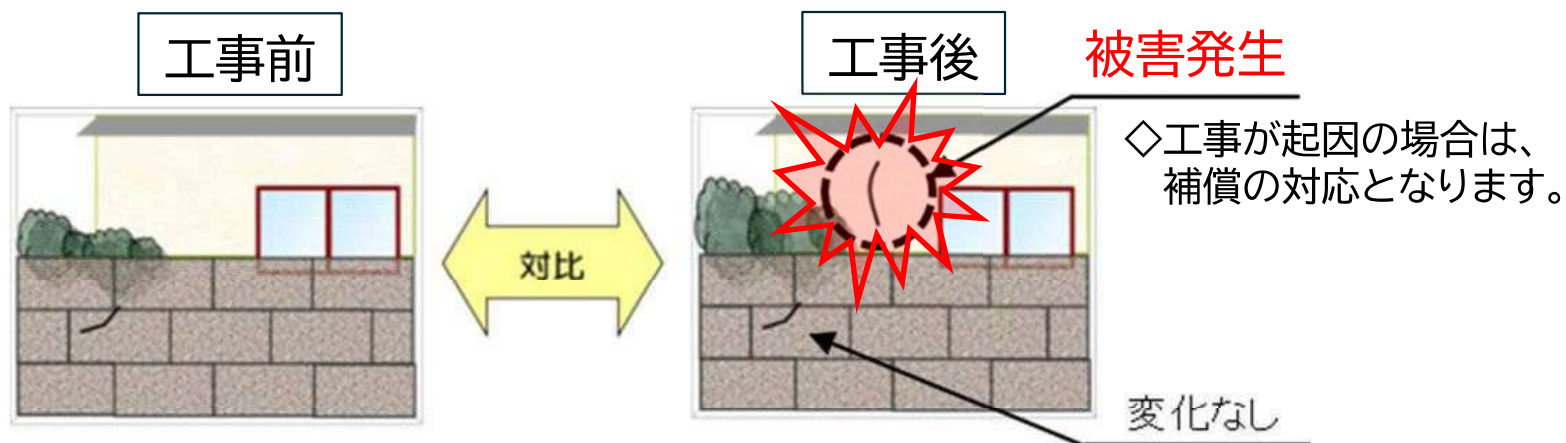
工事車両については、上記以外の車両の通行も予定しています

【3.工事に伴う影響について】

◎工事前の家屋等の事前調査の実施について

家屋調査とは

工事については近隣の家屋等に損傷の無いように細心の注意をはらって進めますが、万一工事によって家屋等に影響が発生した場合に備えるために、工事前と工事後に家屋等の状況を把握するために調査するものです。



【家屋への影響が想定される工事内容】
掘削、鋼矢板打ち込み時の振動など

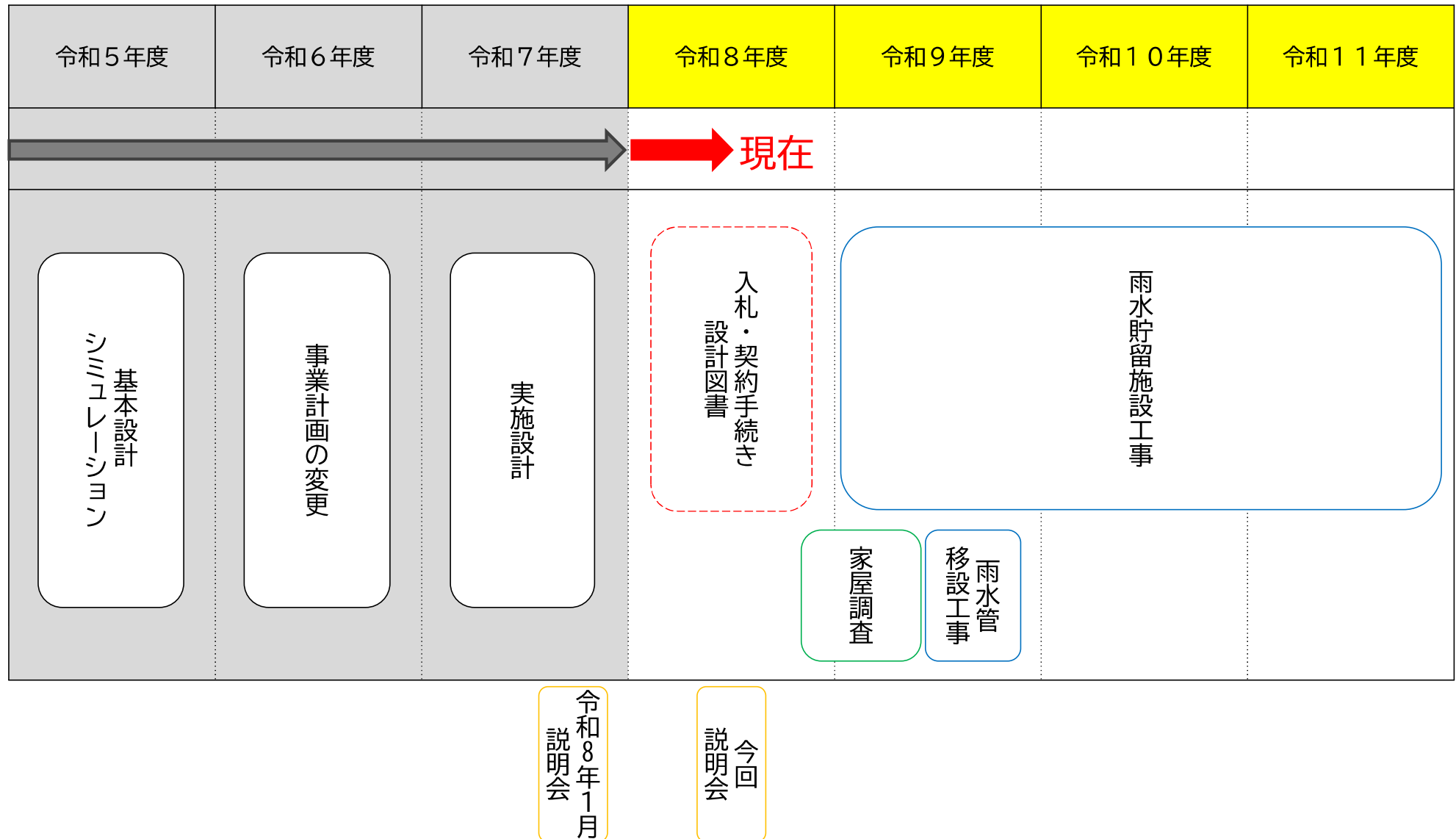


【調査内容】
屋内: 柱や床の傾斜測定
壁や建具等の状態把握(写真撮影含む)
屋外: 壁や塀等の傾斜測定
土間や扉等の状態把握(写真撮影含む)

市で発注する専門業者で調査を行います

【4.スケジュールについて】

令和8年度は、工事の入札・契約手続きを経て、
令和8年度～令和11年度の4ヵ年で工事を実施予定です。



ご清聴ありがとうございました。

【問い合わせ先】

越谷市 建設部 下水道事業課

〒343-8501

越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

(本庁舎5階)

TEL:048-963-9318(直通)

FAX:048-963-9198

